

# 眼の水晶体等価線量評価に用いる 線量計の試験校正手法の開発

産業技術総合研究所  
放射線標準研究グループ  
加藤昌弘

2011年に国際放射線防護委員会(ICRP)は、水晶体の職業被ばくの等価線量限度値を引き下げる声明を出した。国内規制に取り入れるための検討が急務である。

信頼性の高い水晶体等価線量の管理を行うには  
国内の線量計の試験・校正システムの確立が欠かせない。

X線及びβ線の標準場を開発することにより、  
国内の水晶体被ばく線量評価に用いる  
線量計の試験・校正システムの確立に寄与



水晶体被ばく線量評価用線量計による測定の信頼性の向上



複数の線量計で測定された水晶体被ばくに関わる研究・調査データの斉一性を担保

放射線作業従事者の安心と安全

水晶体の被ばくの恐れのある作業



放射線で位置を確認しながら治療

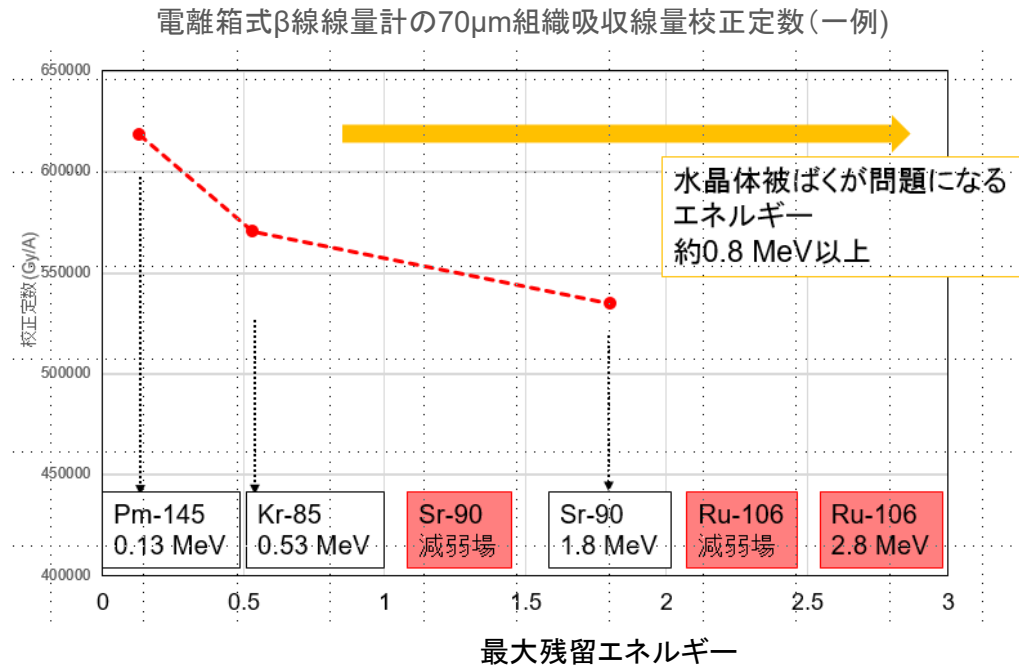


放射線施設での作業

## ◎ β線のエネルギー拡大

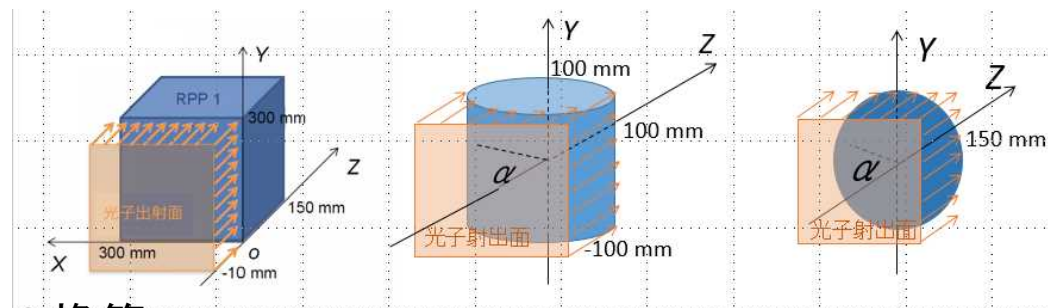
現状では1点のエネルギー  
でしか評価できない

新規にβ線源を導入し、アクリル板との組み合わせにより  
最大残留エネルギー0.8MeV  
～2.8MeVの場を生成する



## ◎3mm線量当量換算係数の導出

X線・β線の標準場について、  
3種類のファントムに対する  
3mm線量当量換算係数を求める



空気カーマ、吸収線量⇒線量当量 の換算

## ◎設定した標準場において3mm線量当量測定器の試験・校正を行う

実施項目	担当者* (所属機関)	平成29年度				平成30年度			
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
目標:									
β線のエネルギーの拡大	加藤昌弘 (産総研)	当初計画	線源の選定		線源発注		納入場の設定		
		実際					納入場の設定		
3mm線量当量換算係数の導出	加藤昌弘 黒澤忠弘 (産総研)	当初計画	換算係数の計算						
		実際							
設定した場における線量計の試験・校正	加藤・黒澤・山口 (産総研)	当初計画	X線場における実施						
		実際	β線場における実施						

**H29年度**には主にX線の線量当量換算係数を求めた。

→産総研におけるX線標準場(ISO規格のNシリーズ校正場、JIS規格のQI線質場、IEC規格のRQR線質)において、3mm線量当量の単位での試験・校正が可能となった。

**H30年度**はβ線場のエネルギー拡大、β線場の換算係数の計算、線量計の校正を行い、当初の計画は一通り終了した。残りの期間で測定の不確かさの詳細を検討する。

## ①β線エネルギーの拡大

H29:  
既存の線源(Sr-90:460MBq)  
を用いて予備実験を実施



H30:  
新規導入線源(Sr-90:3.7GBq),Ru-106:74MBq)を  
用いた場を設定。  
組織吸収線量率( $D(0.07)$ と $D(3)$ )を測定。

## ②3mm換算係数の計算

H29:  
X線標準場(ISO Nシリーズ等)  
における換算係数を導出。



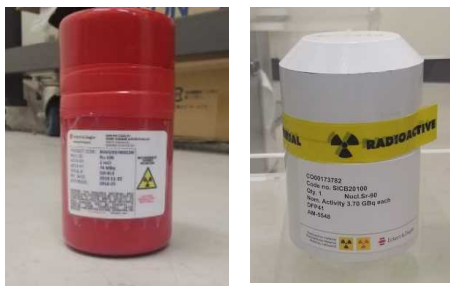
H30:  
設定したβ線場における換算係数を導出。

## ③設定した場における線量計の試験・校正

H29:  
線量計の選定。一部照射試験  
を実施。



H30:  
設定したβ線場において線量計の校正定数を測定。



導入した線源



外挿電離箱による測定



校正定数を測定した電離箱

## ①β線エネルギーの拡大

- ・Sr-90線源(3.7GBq)とRu-106線源(74MBq)を導入。アクリルフィルタでベータ線エネルギーを低減する場を生成。
- ・外挿電離箱による、ゼロ点外挿電流勾配、吸収散乱特性、再結合特性、線量率分布の測定結果から設定した場における組織吸収線量率を決定。
- ・70μm組織吸収線量率については6種類、3mm組織吸収線量率については5種類のβ線場を設定した。

線源核種	PMMA フィルタ	最大残留 エネルギー (MeV)	70μm 組織吸収線量率 $\dot{D}$ (0.07)(mGy/h)	3mm 組織吸収線量率 $\dot{D}$ (3) (mGy/h)	$\dot{D}$ (3) / $\dot{D}$ (0.07)	備考
Sr-90/Y-90(既存)	BFF*	1.8	30.0	12.9	0.43	従来設定済み
Sr-90/Y-90(新規)	5mm	1.0	41.1	1.81	0.044	本研究による
Sr-90/Y-90(既存)	4mm	1.3	11.7	-	-	本研究による
Sr-90/Y-90(新規)	4mm	1.3	111	9.8	0.088	本研究による
Sr-90/Y-90(既存)	3mm	1.5	26.3	3.55	0.135	本研究による
Sr-90/Y-90(新規)	3mm	1.5	233	36.8	0.165	本研究による
Ru-106/Rh-106	なし	2.9	14.8	9.8	0.66	本研究による



外挿電離箱による組織吸収線量率の測定



製作したアクリルフィルタ

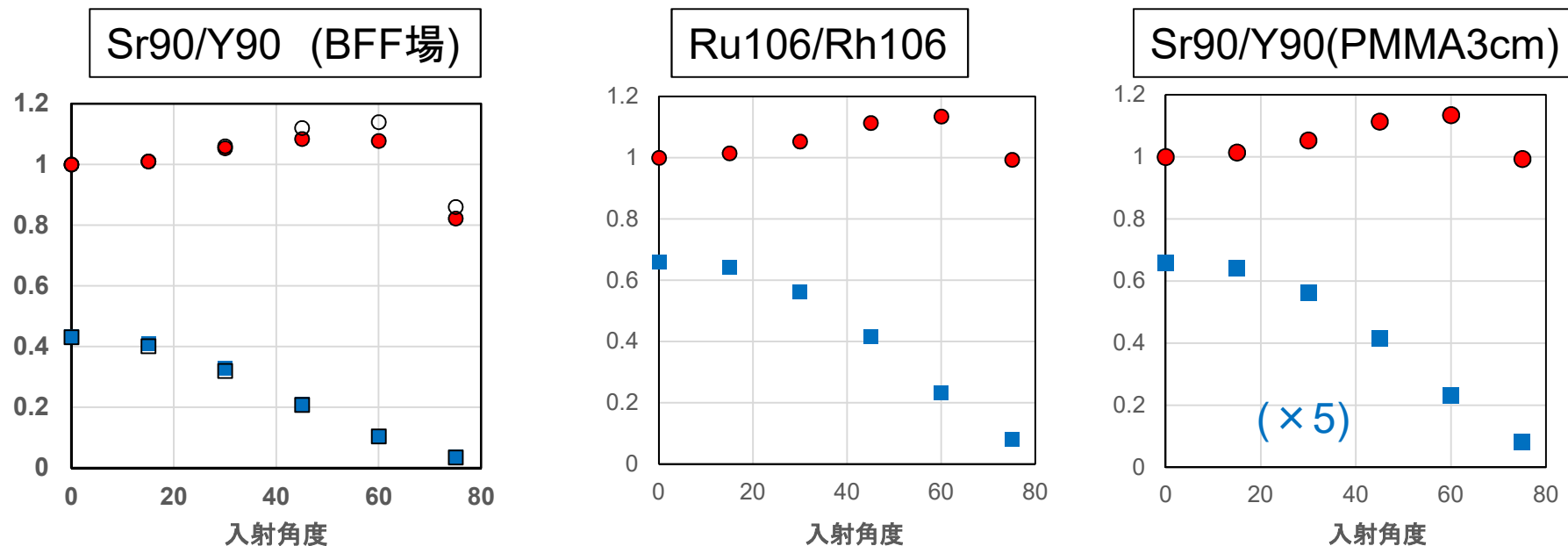
\*BFFはビームフラッタニングフィルタを示す。

## ②β線場の3mm線量当量換算係数の計算

設定した場における70μm組織吸収線量率と3mm組織吸収線量率について、線量当量換算係数を計算により求めた。

→**角度特性の試験が可能に**

線量当量換算係数の入射角度特性



●  $h'(0.07)$  ■  $h'(3)$  EGS5(本研究による)、

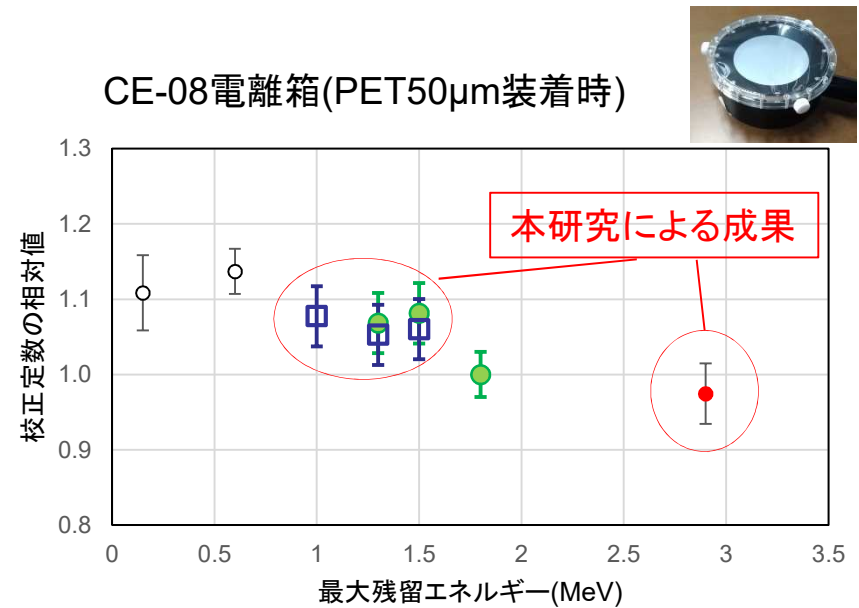
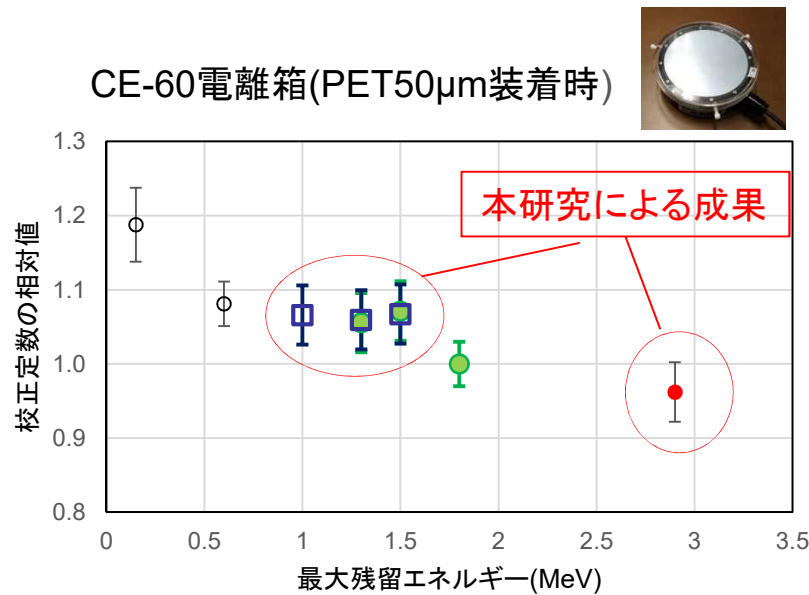
○  $h'(0.07)$  □  $h'(3)$  EGSnrc (Behrens (2015) JINST 10 P03014)

※ビームフラッタリングフィルタ(BFF)場は既存の校正場であり、他の研究報告との比較を示す。

## ③ 設定したβ線場における線量計の校正

### 70μm組織吸収線量率校正定数の測定結果

※各電離箱には、組織70μm厚さに相当するPET50μm厚のフィルムを装着



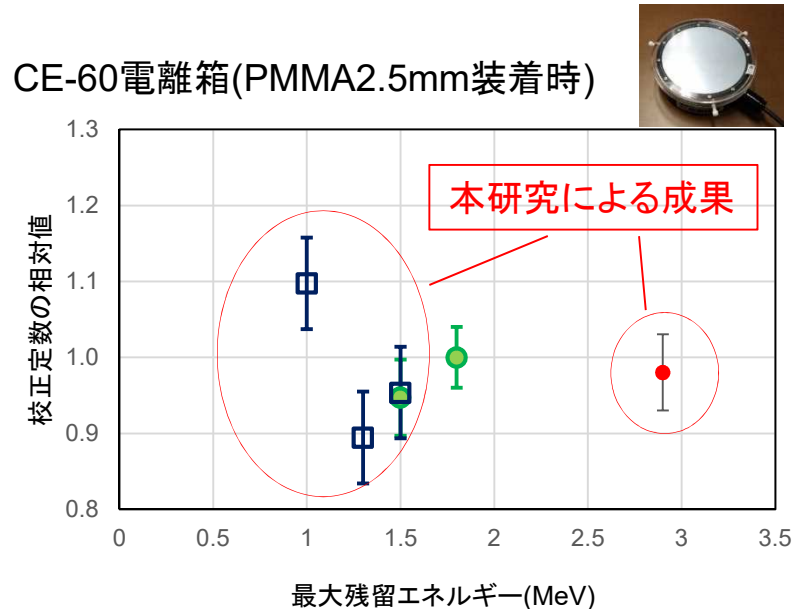
- : 本研究で導入したRu-106による校正場(本研究で開発)
- : 新規Sr90による校正場(本研究で開発)
- : 既存のSr90による校正場(1.8MeVは従来より整備、1.3MeVと1.5MeVは本研究で開発)
- : Pm147およびKr85による校正場(従来より整備)

- ・最大残留エネルギー1.3MeVと1.5MeVでは新旧の線源で結果は良く一致した
- ・従来の3点のみのエネルギーに比べ、校正定数のエネルギー特性を詳細に理解できる



## ③設定した $\beta$ 線場における線量計の校正

### 3mm組織吸収線量率校正定数の測定結果



※電離箱には、2.5mm厚のアクリルフィルタを装着  
(アクリルの3mm組織等価厚さは約2.6mm)  
→3mm線量当量測定用電離箱として利用

- : 本研究で導入したRu-106による校正場(本研究で開発)
- : 新規Sr90による校正場(本研究で開発)
- : 既存のSr90による校正場(1.8MeVは従来より整備、1.5MeVは本研究で開発)

- ・2.5mmのアクリルフィルタを装着した場合の薄膜電離箱の校正定数を測定した。
- ・従来は測定可能なエネルギーが1点のみであったが、1 MeV – 3 MeVの領域で校正定数のエネルギー特性が検証可能となった。

# 自己評価

評価の視点	自己評価	コメント
評価時点までの研究の実施が研究計画に沿って行われているか	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 計画を上回る</li> <li>2 概ね計画どおり</li> <li>3 計画を達成できない</li> <li>4 計画を達成できないが代替手段によって今年度の目標を達成した</li> </ol>	線源の調達・納入に時間がかかったが、予定の事業を行うことができた。補足的な測定を年度内に実施する予定である。
今年度の進捗や達成度を踏まえて、次年度の研究計画に変更が必要か※1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 必要ない</li> <li>2 軽微な変更が必要※2</li> <li>3 大幅な変更が必要※2</li> </ol>	当事業は当初より今年度で終了予定であり、計画通り達成できた。

H30上半期:β線場の換算係数の計算を実施。

H30下半期:導入した線源による標準場の設定および線量計の校正を実施した。

線源の納入までの手続きが長引き、当初計画より遅延が発生したが予定の事業は一通り終了した。残り期間で不確かさの詳細に検討する予定。

# H30年度成果発表

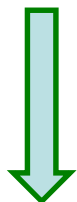
- AOCR-5 (メルボルン、2018/5/20-23)  
”Dose equivalent conversion coefficients of the x-ray reference fields in NMIJ”
- 日本保健物理学会第51回研究発表会 (2018/6/29-30)  
「β線3mm 吸収線量に対する薄膜電離箱とサーベイメータの校正」
- JASIS2018 第4回分析計測標準研究部門シンポジウム(2018/9/7)  
「水晶体被ばく線量測定に用いる線量当量換算係数の決定と実用」
- 原子力学会2019年春の年会(2019/3/20-22)  
「水晶体被ばく線量測定における1MeV以上のβ線校正場の開発」

# 本事業のまとめと今後の活用

X線およびβ線校正場において  
3mm線量当量換算係数を導出した

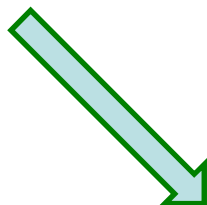


**3mm線量当量の単位での  
校正・照射試験が可能に**



**管理方法を提言するために  
実施する3mm線量当量  
計測の保証**

3mm線量当量測定器の  
校正・試験に活用。



**個人線量モニタリングの  
品質保証**

将来的にH(10)と同様の品  
質保証が必要になれば、技能  
試験などで活用できる。

エネルギーを拡大したβ線校正場において  
電離箱の校正定数を測定した



**β線用电離箱の3mm線量当量及び  
70μm線量当量について、  
校正定数のエネルギー特性を測定する  
ことができることを実証した**



**工業標準化**

β線標準場をISOやJISに取り  
込んでH(3)線量計の校正  
に用いる場として国際的に活  
用する。

